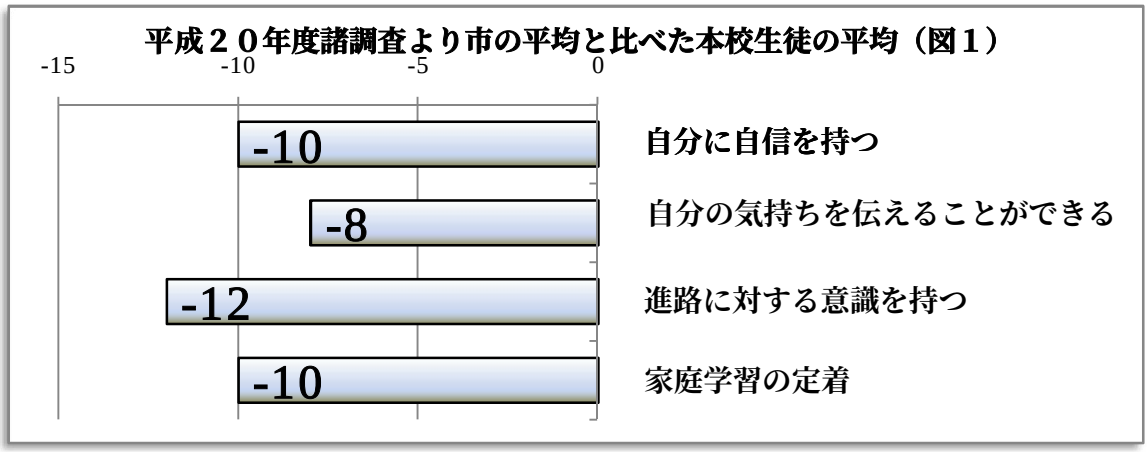
生徒指導の三機能と特別支援教育を視点にした取り組み

広島県安芸高田市立八千代中学校

## 1　これまでの取組み

本校は，平成１８年度より，芸北教育事務所リーディングスクール指定事業を受け，研究主題を「豊かな人間性を育む心に響く道徳教育」として，道徳資料の開発やチームティーチングによる効果的な指導方法，教科・領域との有機的な関連の研究など道徳教育の研究に取組んできた。

しかし，生徒の意識アンケートでは「道徳の授業が好き」が 80%など，道徳の授業については肯定的な結果が出たものの，諸調査から，自己肯定感・人間関係づくり・意欲の弱さが浮き彫りとなった。（図１）




この実態をふまえ，平成２１年度から教育目標を『自ら学び，自信を持って物事に挑戦する生徒の育成』とし，研究主題を『夢を持ち今をがんばる意欲の育成』として３つの柱をたて教育活動全般において取組んできた。

**３つの柱**

**①　学習意欲の向上のための授業改善**

個に応じた指導をすすめるためにＴＴでの授業を設定し，その場で指導することで「わかる授業＝意欲の向上」に取組む。

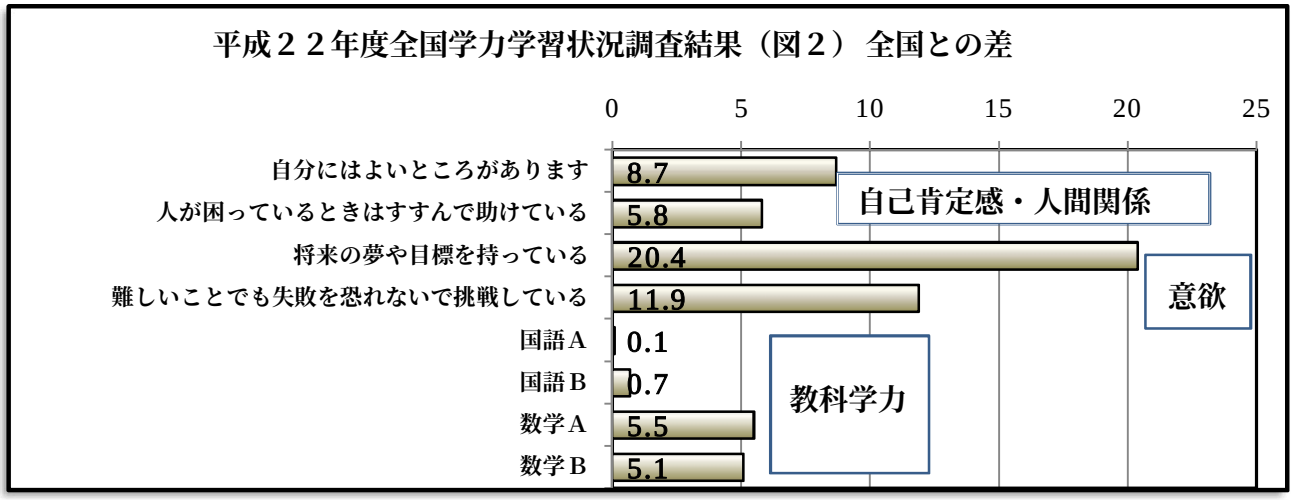
**②　意欲を育てるキャリア教育の推進**

職業人講話や大学訪問を取り入れることにより，生徒に『将来の，なりたい自分探し』を考えさせ，中学生の今を頑張る意欲を育てる。

**③　やりきらせる指導**

勉強・部活・行事を生徒にやりきらせ，充実感・達成感を感じさせることにより，自己肯定感や人間関係能力を育てる。

これらの取組みにより，自己肯定感や自分の夢や目標を持つことなど意欲の向上が見られた。また，教科の学力においても向上させることができた。（図２）




## 2　新たな課題

平成２１年からの取組みにより静和な学校風土が定着し,落ち着いた学校となってきた。しかし，生徒一人一人が自分を見つめ，将来の自己実現を図っていくといった意欲の向上という本質的な課題解決には至っていない。

また，近年発達障害傾向の生徒の増加に伴い，今まで通りの取組みでは，すべての生徒に充実した教育を保障することが難しいという課題も浮かび上がってきた。

## 3　課題解決を目指して（戦略）

これまでの取組みを発展させ，生徒一人一人が意欲を持って学校生活に臨むものとして，次の２つのことを共通認識し，学校生活の中で生徒の活動をもっとも保障すべき授業において実践することとした。

### （１）生徒指導の三機能を生かした授業

> 生徒指導とは，生徒の人格を尊重し，個性の伸長を図るとともに，個々の特性を生かしつつ，集団生活や社会生活を円滑に進めていけるような資質や能力の向上を図るものである。
>
> 生徒自ら判断し，行動し，その結果に責任を持つという自己指導能力を育成することが生徒指導の目標である。（文部科学省「生徒指導提要」平成２２年４月２日）

このことから生徒指導とは，すべての生徒の人格の育成をめざすものであり，単なる問題行動への対応だけではない。学校教育において，生徒指導は学習指導と並んで重要な意義を持つものであり，両者は互いに深く関わっている。言いかえれば生徒指導は学習指導と一体化してこそ有効にはたらくのである。

学校では，一人一人の健全な成長を促し，将来の自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を，教育活動全体を通じて進めていくことが重要である。そしてその中心をなすのは各教科の授業であり，その授業の中で生徒指導の三機能を生かした自己指導能力を育成していくことが大切である。

筑波大学助教授　桜井茂男によると，内発的学習意欲を支えるものとして，①有能感　②自己決定感　③他者受容感の三要素をあげている。つまり，指導者や友達から自分が受け入れられているから，自分なりに考え行動することができ，そのことにより，自分の存在が認められ，自分が役に立っているという有能感を持つことができるということである。

これらは生徒指導の三機能の①自己決定力　②自己存在感　③共感的人間関係にあたる。したがって，生徒指導の三機能を生かした指導を進めていけば意欲の向上が期待できると考える。

【生徒指導の三機能を生かした授業のポイント例】

| 自己決定力<br>生徒自らが考え表現する | 自己存在感<br>個を大切にし，学ぶ楽しさや達成感を成就する | 共感的人間関係<br>お互いが認め合い，学び合う |
|---|---|---|
| ○生徒が興味・関心を持つ教材やその提示を工夫している。<br>○生徒に課題解決の過程を立てさせるような授業展開にする。<br>○生徒自らが調べたり，実験したりするように配慮する。<br>○友達の考えとの異同を明確にし，自分の考えを持たせる。また，発表する場をつくっている。 | ○生徒の考えの良さを認め，肯定的評価をする。<br>○つまずきや誤答を肯定的に取り上げ，みんなのためになったことを評価する。<br>○机間指導で全生徒に声をかける。<br>○どの生徒をどの場面で活かすかを工夫する。 | ○生徒の発表にうなずきや相づちで応え，共感的に受け入れる。<br>○たどたどしい発言や的外れの発言でも言い終わるまで丁寧に聞く。<br>○発言をつなぎ，集団での学びの場とする。指導者と生徒との１対１のやりとりにならない。<br>○傾聴姿勢を取らせる。 |

（２）特別支援教育を視点にした授業改善

特別支援教育は，これまでの障害児教育の対象の障害だけでなく，知的な遅れのない発達障害も含めて，特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるものである。このことは，障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり，我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている。（平成１９年　文部科学省「特別支援教育の推進について（通知）」及び，平成２０年「広島県特別支援教育ビジョン」より）

また，国立特別支援教育総合研究所の廣瀬由美子発達障害教育情報センター長は『特別な教育的ニーズのある生徒への教育的支援は，すべての生徒への支援に役立つ』という認識から，特別支援教育に視点をおいた授業のユニバーサルデザイン化を進めることで，すべての生徒が主体的に学習することができるとしている。

すなわち，特別な教育的ニーズの必要な生徒をはじめ，すべての生徒の教育的ニーズに応えるためには，個別の支援に加えて，一斉授業の中で適切な支援や指導をはじめから盛り込んで授業をデザインすることが重要であり，そのことは，特別な指導や支援を必要としている生徒だけでなく，学級のすべての生徒の学びの場となる授業となる。このように，特別支援教育に視点を置いた授業のユニバーサルデザイン化を進めていけば，すべての生徒が『わかる・できる』授業が展開でき，意欲の向上が期待できると考える。

【授業のユニバーサルデザイン化とは】
　ユニバーサルデザインとは，多様な人々が利用しやすいようにデザインすることをいう。この考えを授業に取り入れ，多くの子ども達にとってわかりやすい指導･支援のあり方を授業づくりに生かしたもので，特別な支援を必要としている子どもたちだけでなく，すべての子ども達にとって有効である。

【特別支援教育に視点をおいた授業（ユニバーサルデザイン化）のポイント例】

| シンプル<br>焦点化・単純化 | ビジュアル<br>視覚化 | シェア<br>共有化・つながり・認め合い |
|---|---|---|
| ○本時のねらいを示し，活動の流れを板書や掲示物で示す。<br>○一つの指示で，一つの課題を出す。<br>○学習を細かいステップに分けて指導する。（成功体験を得る機会を増やす）<br>○何をどこまでするのか，終わったらどうするのかを明確に指示する。 | ○手本・例・模型・見本などを示し，イメージを持たせる。<br>○視覚的な手がかり（パネルやフローチャートなど）を示して説明する。<br>○学習過程が後からでもわかる表示や板書を工夫する。<br>○注目させたい部分は強調して提示する。 | ○生徒の望ましい発言や行動を積極的に評価し，言葉や賞賛をおくる。また，可能な限り生徒の発言をつないで授業を展開し，ねらいに迫る。<br>○学習の形態を個人思考から集団思考へつながるように工夫する。<br>○多様な方法で発表させる機会を設定する。 |

（３）戦略

　私たちは，特別な指導や支援を必要としている生徒を含め，すべての生徒に『わかってできる楽しい授業』を提供し，意欲を高めていくために，特別支援教育に視点を置いた授業のユニバーサルデザイン化と生徒指導の三機能を生かした授業に注目した。両者は一見独自の領域に見えるが，その内容では共通しているところが多くある。具体的には生徒指導の三機能が指導方針であるとすれば，ユニバーサルデザイン化がその指導方法であるといえよう。

　私たちは，学校生活の中で生徒の活動をもっとも大切にすべき授業において『生徒指導と学習指導の一体化』に取組むことにした。そして，授業構成をシンプル・ビジュアル・シェアの合い言葉のもと，共通実践事項を決め，授業の中で共感的人間関係を構築し，自己存在感を培い，自己決定力を育成していくことが，学力の向上につながり，生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成が図られ，生きる力の源となる「意欲」が育成されると考える。

## Ⅱ　研究の概要

### 1　研究主題

**自己指導能力を涵養する学びの創造**

**～生徒指導の三機能を生かし，特別支援教育を視点にした授業改善を通して～**

### 2　研究主題設定の理由

時代背景や社会の動向は，私たちの予想を遙かに超えて激しく変化している。それに伴って生徒の実態も大きく変化している。指導法などの実践の蓄積なくしては，日々繰り返される生徒指導上の諸問題への対応は難しい状況にある。

また，本校の課題として，諸調査から，「自尊感情・人間関係づくり・意欲」の弱さが浮き彫りとなっている。この課題を克服するためには，将来の自己を実現させる自己指導能力の育成が不可欠で，その育成は日常の教育活動全体を通じて進めていくことが重要である。とりわけ教育活動の中心である授業の中で生徒指導の三機能を生かし，自己指導能力を育成していくことが大切であると考えた。

従って今年度は，八千代中学校の研究目標を発展的に一新して，研究主題「自己指導能力を涵養する学びの創造～生徒指導の三機能を生かし，特別支援教育を視点にした授業改善を通して～」とした。

生徒指導の三機能を生かした授業実践によって，生徒一人一人が自己指導能力を高め，ひいては学力向上を図り，自らの人生目標が達成できる生きる力を涵養したい。

今後，様々に生起するであろう生徒指導上の諸問題の要因・背景には，社会的規範意識の低さや基本的な倫理観・道徳観の欠如，また発達遅滞によるものなど多種多様である。従って，その解決に向けて生徒に「自己指導能力」を涵養していくことは重要であると考える。

現在，毎日の授業やあらゆる活動場面において，様々に生起する諸問題を解決するとき，生徒指導の三機能を意識した指導を組織的に行えば，有効であることは衆知のところであり，更にそのことが，教職員全員に共通認識され共通目標となったとき課題克服に向けた道が大きく開けてくるだろう。

校訓の具現化を最大目標として，その実現に向けた様々な実践方法の一つとして生徒指導の三機能を生かした取組みがあり，また，特別支援教育を視点にいれた授業（ユニバーサルデザイン）は，その実践に適した取組みであると考える。

以上のことから，今年度は生徒指導の三機能を生かし，特別支援教育を視点にした授業改善を通して『生徒指導と学習指導を一体化した授業のあり方』の研究・実践をすすめていきたいと考える。

## 3　研究構想図

課題：「自尊感情・人間関係づくり・意欲」の弱さ
①自分に自信がない。
②進路意識が弱い。
③自分の気持ちを伝えることが弱い。
①わかる授業：TT 指導，個人指導
②キャリア教育：職業人講話，高校訪問，大学訪問
③やりきらせる指導：達成感，肯定的評価
一定の成果，しかし，本質的な課題解消には至っていない。
【継続課題】
意欲向上の本質的な取組みの必要性
【新たな課題】
発達障害傾向の生徒の増加
《学ぶ 環境・風土》
生徒指導の三機能
［自己指導能力の育成］
わかった・出来た
学ぶ意欲
特別支援教育を視点にした授業
［授業のユニバーサルデザイン化］
生徒指導と学習指導の一体化
すべての生徒がわかる・できる授業の創造
研究主題　自己指導能力を涵養する学びの育成
～生徒指導の三機能を生かし，特別支援教育を視点にした授業改善を通して～
（自己決定力・自己存在感・共感的人間関係）
【校訓】
勤勉　感謝
責任　協調
【教育目標】
自ら学び，自信を持って物事に挑戦する生徒の育成
生きる力の育成

## ４　研究仮説

本年度の教育研究の実践において次の研究仮説をたてた。

**【研究仮説】**

授業の場で生徒指導の三機能を生かし，特別支援教育を視点にした授業づくり〈生徒指導と学習指導の一体化〉をすすめていけば，すべての生徒が「わかった・できた」と実感できる授業が創造でき，意欲の向上につながるであろう。

## ５　研究の視点

（１）生徒指導と学習指導を一体化した授業のあり方

生徒指導の三機能を生かし，特別支援教育を視点にした授業の研究

～共通実践事項の取組みを通して～

（２）教育活動全体の中で，生徒指導の三機能に基づく自己指導能力の育成

## ６　検証の視点

（１）すべての生徒が「わかった・できた」と実感できる授業が創造できたか。

○校内アンケートの分析

（２）生徒の学力は向上したか。

○諸調査（「基礎・基本」学力定着状況調査など）の分析

（３）生徒の意欲は向上したか。

○諸調査（「基礎・基本」学力定着状況調査など）の分析

## ７　実施計画等

（１）平成２２年度の取組み

○　８月３１日　校内研修（授業改善「やちよの授業について」）

○　９月　５日　三次市立吉舎中学校教育講演会参加

［講師　佐藤　曉　先生　　岡山大学大学院教育学研究科教授］

○１０月２９日　三次市立吉舎中学校公開研究会参加

［講師　佐藤　曉　先生　　岡山大学大学院教育学研究科教授］

○１１月１０日　三次市立十日市小学校公開研究会参加

［講師　佐藤　曉　先生　　岡山大学大学院教育学研究科教授］

○１２月　８日　校内授業研修（理科）

○　１月２１日　刈田小学校校内授業研修参加［講師　杉田　郁代　先生　　環太平洋大学教授］

○　２月１５日　吉田小学校授業研修参加

［講師　佐藤　曉　先生　岡山大学大学院教育学研究科教授］

○　３月　２日　校内授業研修（国語）　［講師　杉田　郁代　先生　　環太平洋大学教授］

（２）平成２３年度の取組み

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ４月 | 研究計画の立案と共通認識 | | 今年度の研究方針についての共有化 | |
| ５月 | めざす授業像の明確化，共有化をはかる。 | 日々の授業改善（研究授業・授業交流）・生活全般における指導の実践 | 研究計画の実施<br>各教科において授業改善をすすめる（授業の工夫） | 生徒アンケートの実施 |
| ６月 | 各教科日常的に効果的な指導法を工夫し実践する。 | | 授業研究（理科）<br>校内研修 | 指導主事招聘 |
| ７月 | 授業交流及び授業研究を推進する。 | | １学期の授業を振り返って（課題と今後の取組みについて明確にする） | 生徒アンケートの実施 |
| ８月 | 研究･実践の中間まとめ<br>(課題の明確化) | | 研究・実践の中間まとめ<br>校内研修 | |
| ９月 | 課題を踏まえて各教科指導法を改善工夫し実践する。 | | 授業研究（社会科）<br>校内研修 | 指導主事招聘 |
| １０月 | | | 授業研究<br>校内研修 | 生徒アンケートの実施 |
| １１月 | 研究公開 | | 研究公開 | 指導主事招聘 |
| １２月 | 今年度の研究の成果と課題の明確化をはかる。<br>組織的な取り組みとして継続する。 | | ２学期の授業を振り返って（課題の修正）<br>校内研修 | 生徒アンケートの実施 |
| １月 | | | 授業交流 | |
| ２月 | | | 授業交流 | 生徒アンケートの実施 |
| ３月 | 来年度研究計画の立案 | | 研究・実践のまとめ<br>来年の研究計画の方針 | |

○　４月１４日　吉田小学校授業研修参加
［講師　佐藤　暁　先生　　岡山大学大学院教育学研究科教授］
○　５月１８日　校内研修（授業改善）
○　７月　６日　校内授業研修（理科）
［指導・助言　長尾　佳和　指導主事　　広島県西部教育事務所芸北支所］
○　９月２０日　吉田小学校授業研修参加
［講師　佐藤　暁　先生　　岡山大学大学院教育学研究科教授］
○　９月２９日　校内授業研修（社会）
［指導・助言　長尾　佳和　指導主事　　広島県西部教育事務所芸北支所］

【参考資料・引用文献】


○「生徒指導提要」　文部科学省　平成２２年４月２２日
○「特別支援教育の推進について（通知）」　文部科学省　平成１９年
○「広島県特別支援教育ビジョン」　広島県教育委員会　平成２０年
○「第３節　自ら学ぶ意欲を高める指導と評価」　桜井茂男（筑波大学教授）
○「授業のユニバーサルデザイン」Ｖｏｌ．１　　東洋館出版
《全員が楽しく「わかる・できる」国語の授業づくり》
廣瀬由美子（国立特別支援教育総合研究所発達障害教育情報センター長）他
○「授業のユニバーサルデザイン」Ｖｏｌ．２　　東洋館出版
《「全員参加」の国語・算数の授業づくり》
廣瀬由美子（国立特別支援教育総合研究所発達障害教育情報センター長）他
○「ユニバーサルデザイン」
ドナルド・メイス（アメリカノースカロライナ州立大学）１９８５年

## Ⅲ　実践と検証

### 1　共通実践事項の作成

特別な指導や支援を必要としている生徒を含め，すべての生徒に『わかってできる楽しい授業』を提供するため，特別支援教育に視点を置いた授業のユニバーサルデザイン化と生徒指導の三機能を生かした授業に注目し，学校生活の中で生徒の活動をもっとも大切にすべき授業において『生徒指導と学習指導の一体化』に取組むことにした。まず，そのための『共通実践事項』を作成し授業改善を進め，その教育的効果を事前・事後アンケートで検証することとした。

授業における『共通実践事項』

| | | |
|---|---|---|
| 学習環境整備 | | ○前の黒板の周りなど，視界に入る部分はすっきりとしておく。<br>○授業の前には，黒板をきれいにする。<br>○教室の整理整頓，不要なものを置かない，ゴミを拾う。<br>○授業で必要なものを確認する。 |
| 導　入 | | ○着ベルの徹底。授業の開始時刻を守る。<br>○あいさつ（語先互礼）を，はっきりと大きな声でする。（姿勢も指導する）<br>○１時間の授業のねらいを板書や掲示物で示す。（強調する・復唱させる・イメージさせる）<br>○前時の振り返りをする。（既習事項・重要語句など）<br>○本時の学習の流れを示し確認させる。（場合によって単元の流れも示す）<br>○生徒に興味・関心を持たせるため，分かりやすくイメージしやすい工夫をする。（実物・モデル・カード・補助黒板・視聴覚機器・作品見本等を提示し工夫をする。 |
| 展開 | 指示・説明 | ○話や作業を止め，一瞬の間を取り，全員を注目させ指示や説明をする。<br>○一指示・一動作・一確認。（多くの指示と言いかえをしない。指示を復唱させるなど確認する。）<br>○注目させるときは声のトーン（大きさ，速さ）を変える。〈口調が早くならないこと〉<br>○全体に指示を出した後，個別指導が必要な生徒に支援を行う。<br>○実物やモデルを示したり，図や資料，生活に関わった事例で説明する。 |
| | 視点 | ○活動の視点（何をどこまでする。終わったらどうする。）を明確に示し生徒に確認する。 |
| | 時間 | ○学習の進度は時間配分を十分配慮し速すぎないようにする。<br>○思考させる時間確保とその方法を工夫する。（読む・調べる・作業する・交流する・発表するなど） |
| | 学習活動 | ○指導者がしゃべりすぎない。生徒の活動時間を十分取る。（全員参加させる工夫）<br>○学習を細かいステップに分けて指導する。（成功体験を多く感じさせるためのスモールステップ）<br>○学習内容に応じた学習形態（一人調べ，ペア，班，全体など協同学習）を取り入れる。<br>○発表の難しい生徒への，『発表の仕方のモデル』を提示する。<br>○話し手を見て，最後まで聞くように指導する，傾聴姿勢の徹底。（安心して発表できる場づくり） |
| | 評価 | ○生徒の言動を肯定的に評価（言葉や拍手など）し，可能な限り生徒の発言をつないで授業を展開させる。（間違った内容も大切にし，授業を深化させる。）【集団の学びの場づくり：自分の言ったことはみんなの役に立ったという有用感・安心感を持たせる】 |
| | 板書 | ○文字や図はすっきりと最小限にする。構造的板書を工夫する。<br>○ノートを取る時間を確保する。<br>○赤のチョークは見えにくいことを留意する。 |
| まとめ | | ○生徒が今日の学習を振り返り，今後の学習について確認する場を設ける。自己評価の場面を設定する。<br>○家庭学習の具体的な指示をする。<br>○授業の終了時刻を守る。（終わりの号令まで，学習道具を片付けさせない。） |

## ２　授業展開例

# 社会科学習指導案

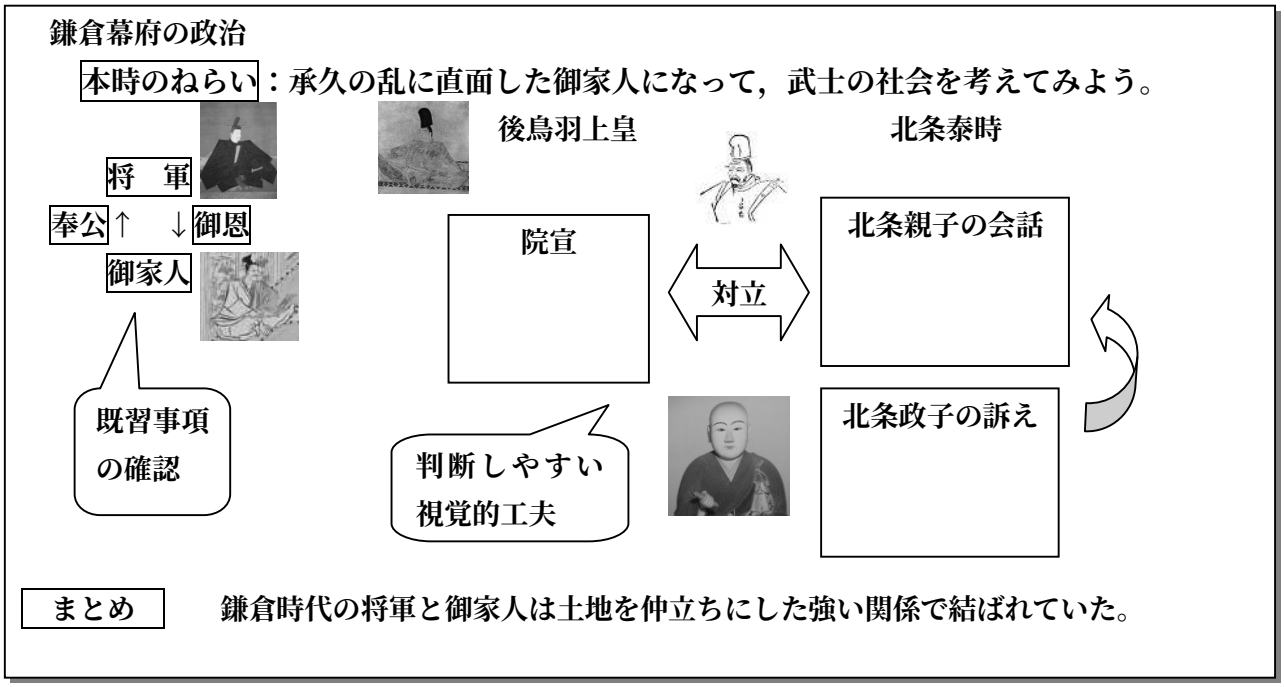
○日時　　平成２３年９月２９日（木）５校時（多目的室）
○学年・学級　第１学年（男子１８名　女子１０名）計２８名
○単元名　　鎌倉幕府の成立
○本時の展開
①学習内容　　鎌倉幕府の政治（４／５時間）
②本時の目標
承久の乱に直面した御家人になって，武士の社会を考えてみよう。
③観点別評価規準
鎌倉幕府が確立される経過と将軍と御家人との関係を理解している。【知識・理解】
○準備物
・北条政子と後鳥羽上皇の人物写真（似顔絵）
・提示資料（院宣・北条父子の会話・政子の訴え）
・コーナー表示，ワークシート

○学習の展開

| | 主な学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準 |
|---|---|---|---|
| 導入 | ・前時の復習 | ◇重要語句の復習をさせる。 | |
| 展開 | 承久の乱に直面した御家人になって，武士の社会を考えてみよう。 | | |
| | 《step１　自分の考えを持つ》<br>・鎌倉時代の御家人になったつもりで承久の乱のときに幕府方と朝廷方のどちらに味方して戦うかを考える。 | ◇教室の三隅に，「幕府方」「朝廷方」「迷ってござる」の紙を貼り，それぞれの場所に，ワークシート記入用の机を用意しておく。<br>◇ワークシート①②を配布する。<br>◇後鳥羽上皇の写真と資料（院宣）を黒板に提示する。<br>◇正解不正解を決めるのではないことと，理由を明確にすることが大切であることを伝える。 | 【シンプル】<br>【ビジュアル】<br>・移動する場所を明示し，自分の考えを表明しやすいようにワークシートを用意する。 |
| | ・後鳥羽上皇の院宣を見て自分が御家人だったらどうすかを判断し，自分 | 〔予想される反応〕<br>・自分たちが忠誠を誓った将軍はもう死んでしまったのだから，北条氏のいうことなどもう聞く必要がない。<br>・自分たち御家人は幕府から土地をもらっ | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | の考えと同じコーナーに移動する。<br>自己決定力 | てここまで生かしてもらったのだから，最後まで幕府方につくべきだ。<br>・朝廷に逆らったら，自分も義時のように討たれてしまうかもしれない。 | |
| | 《step２　自分の考えを発表する》<br>・教室内を移動してほかのコーナーの生徒と意見を交流する。<br>共感的人間関係<br><br>《step３　人の考えと比較して自分の意見を持つ》<br><br>・他の意見を聞いて，再度自分ならどうするかを決める。<br>自己決定力<br>・北条政子の訴えを読んでどうするかを決め，同じ意見のコーナーに移動し，理由を記入する。<br>・全体で意見交流をする。 | ◇各コーナーでの生徒の活動を積極的に全体のものにしていく。<br>◇ワークシートに交流の記録を記入するように伝える。<br><br>◇北条政子の写真と訴えを黒板に提示する。<br>◇理由を明確にするように指示する。<br>◇承久の乱の終末を話す。<br><br>【シェア】<br>・グループでの意見をまとめた後，全体で交流し，個の思考を深める。 | 【シェア】<br>・個の思考をさせた後，ペアやグループを作り，意見の交流をさせる。<br><br>鎌倉幕府が確立される経過と将軍と御家人との関係を理解している。<br>【知識・理解】 |
| まとめ | 《step４　自分の考えの変容を振り返る》<br>・活動を振り返って，本時のまとめをする。 | ◇鎌倉時代の将軍と御家人は土地を仲立ちにした強い関係で結ばれていたことを理解させる。 | |

○板書計画（構造的板書の工夫）




○指導・助言　　［広島県西部教育事務所芸北支所　　指導主事　長尾佳和　先生］

1　学習したくなる授業である。

（1）言語活動の充実が図られている。

・自分で考える　友達と共有する
・思考・判断・表現させる

（2）考えたくなる授業構造である。

・考えたくなる状況設定（思考）
・判断したくなる課題
・表現したくなる状況の設定
・A　or　B の選択など判断したくなる状況を設定

（3）全員参加の授業である。

・一問一答形式のシンプルでだれでもわかる問い
・だれでも考えられる問い
・予備知識がなくても答えられる問い

2　３つの視点における課題として，

| | |
|---|---|
| 1．シンプル | ・課題がシンプル<br>・資料の限定　材料が多すぎると考えられない |
| 2．ビジュアル | ・板書　判断しやすいように工夫する<br>・位置を考える。 |
| 3．シェア | ・既習事項をお互いで確認する<br>・根拠の交流の時間を保障する |

3　共通実践として

共通実践事項をもとに，授業研究を進め，その教育的効果を検証しながら取組んでいく。

## ３　生徒指導の三機能を生かした教育活動

特別支援教育に視点を置いた授業のユニバーサルデザイン化と生徒指導の三機能を生かした授業，つまり『生徒指導と学習指導の一体化』を効果的に機能させるためにも，全教育活動の中で生徒指導の三機能を生かした活動を推進していくことが大切である。

【教育活動を支える生徒指導のはたらき】
（文部科学省「生徒指導提要」平成２２年４月２日）

１　道徳教育と生徒指導

道徳教育で培われた道徳性や道徳的実践力を，生きる力として日常の生活場面に具現できるように援助することが生徒指導のはたらきである。

２　総合的な学習の時間と生徒指導

横断的・総合的な学習や探求的な学習を協同的に学ぶ事を通して自己の生き方を考えるという総合的な学習の時間のねらいは，一人一人の健全な成長を促し，児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成につながる。

３　特別活動と生徒指導

「望ましい集団生活を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的態度を育てるとともに，自己の生き方についての考えを深め，自己を生かす能力を養う。」という特別活動の目標と，生徒指導のねらいである自己指導能力や自己実現のための態度や能力は，重なっている部分があり，密接な関係にあるといえる。

## Ⅳ　成果と課題

### 1　成果

検証の視点を生徒アンケート，学力調査，生徒の感想などから考察すると，概ね研究仮説のねらいは達成できつつあると思われる。平成２１年度より『意欲の育成』に取組んできたが，『生徒指導と学習指導の一体化』に着手することにより，さらに根本的，普遍的な取組みとなり，生徒一人一人の自己指導能力を涵養する学びの創造への第一歩を歩めたと考えている。

【検証の視点（１）について】
○すべての生徒が「わかった・できた」と実感できる授業が創造できたか。

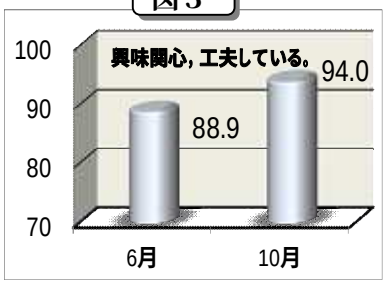
図１

生徒の事前・事後アンケートの結果から考察すると，「授業がわかる」の項目が図１のように向上している。この理由として考えられることは「生徒に興味・関心を持たせる工夫をしている」ことや「説明や指示をわかりやすくしている」ことがあげられる。特に「説明や指示」については，事前アンケートから「先生の説明が簡潔でなく，何度も言い換えたり，活動の途中で付け加えたりする」「一度に多くの指示が出る」などの回答があったため，共通実践事項に掲げ取組んだ。図２は伸びてはいるが，まだまだ改善の余地がある。図３は好ましい結果となっている。

また，授業の終わりでの「振り返り」の時間を確保し，自己評価や家庭学習の具体的な指示をすることも功を奏していると考えられる。その結果，「授業の終わりに学習したことがわかる」の項目も伸びている。

図２

図３




「授業が楽しい」という項目についても図４のように向上している。この理由として考えられることは授業の中で自己決定力や自己存在感・共感的人間関係が機能しているからであろう。具体的には，自己決定力にかかわる項目として「自分で考える時間がある」という項目は図５のようにほとんどの生徒が肯定的評価をしている。

図４

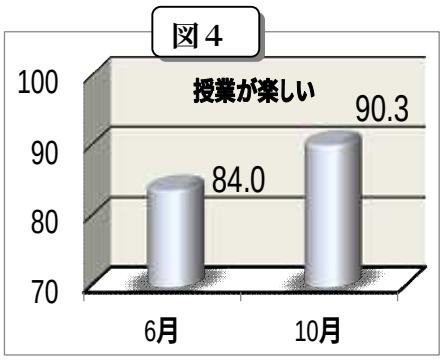
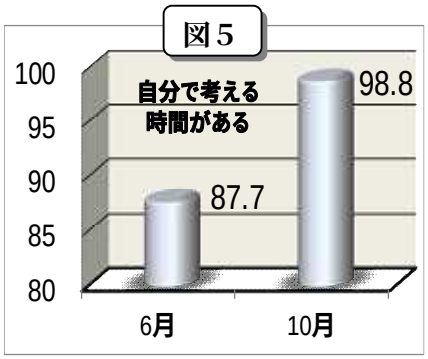



図５




また，共感的人間関係の構築としては教師と生徒との関係及び生徒同士の関係が考えられる。教師との関係については図６，生徒同士の関係については図７のように好ましい関係が構築されている。（次ページ）

その他に，生徒の自己評価ではあるが，授業での返事や発表，聞く態度などの「授業規律がよい」や「授業に集中できる」についても伸びている。

事前・事後アンケートからの考察により，「わかった・できた」という授業の創造ができつつあると考えるが，今後，すべての生徒がそう思える授業をめざすことが課題である。

図６

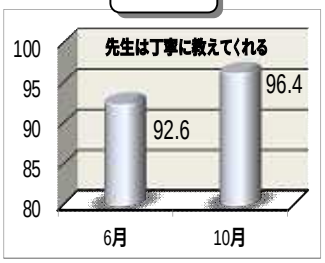
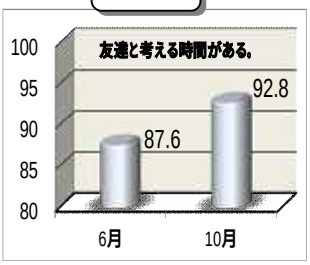
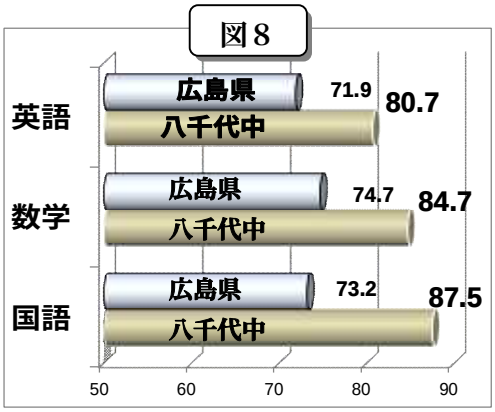



図７




【検証の視点（２）について】
○生徒の学力は向上したか。

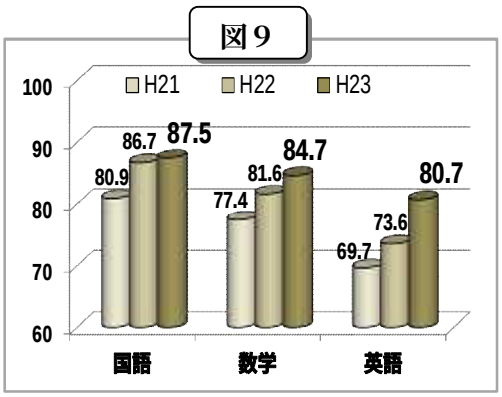
図８




平成２３年度広島県「基礎・基本」定着状況調査では，図８のように広島県の平均を大きく上回っている。

また，年度ごとの各教科の様子は図９のように確実に伸びてきている。このことは本校が生徒の課題から「意欲の育成」に取り組んできたことが学力の向上につながっていることを物語っている。さらに今年度は３教科とも通過率 80%以上の結果を出していることは，昨年より進めてきた取組みの結果でもあるといえよう。

図９




また，この学力の向上は，今年度で３年目になる小中連携教育の成果でもある。平成２１年度より八千代町小中連携教育研究会を立ち上げ，企画部会，生徒指導部会，健康教育部会の３部会を中心として子どもたちの課題を共通認識し，その課題克服に向けて取組みを進めてきた。図１０，図１１は小学校 5 年生が３年後，中学校２年生になって広島県「基礎・基本」定着状況調査を受けたときの県平均との差である。この追跡調査からわかることは，小学校での基礎・基本の取組みの上に，中学校で取組みが実を結んできていることである。

図１０

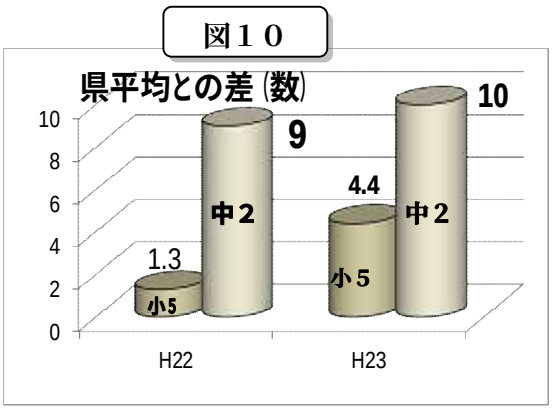
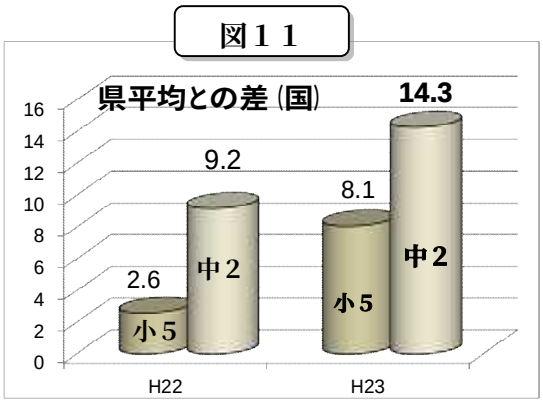



図１１



【検証の視点（３）について】
○生徒の意欲は向上したか。

平成２３年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の意識調査では図１２のように，学習意欲にかかわる項目が県平均より高くなっている。特に，「わかるまで努力する」「復習をする」「家庭での勉強時間 」などの項目は検証（１）（２）とのかかわりが大きい。

また，将来の自己実現につながる「意欲」の項目「将来の夢や目標を持っている」については，図１３のように高い結果になっている。

図１２

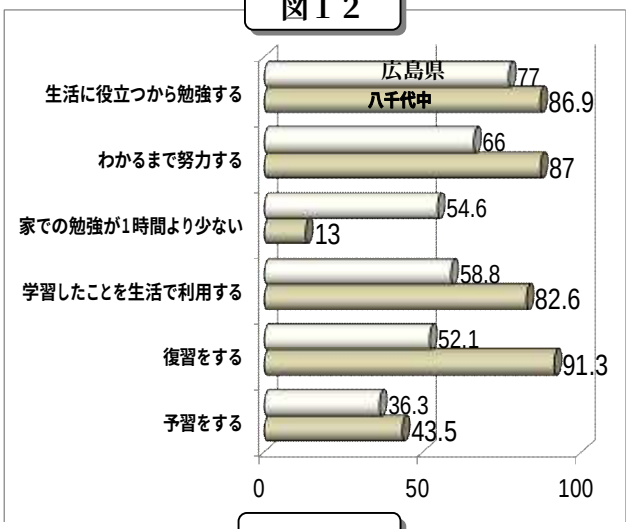
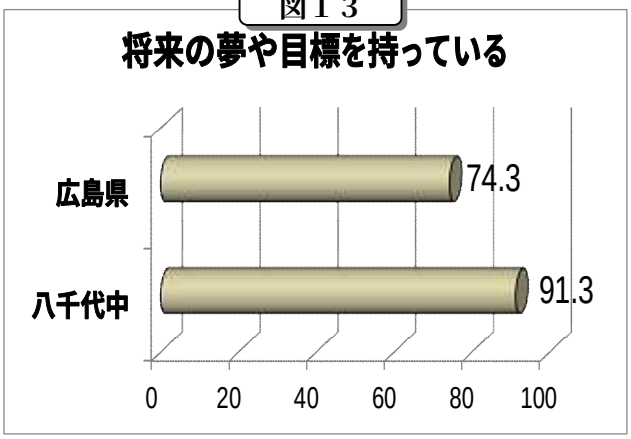



図１３




２　課題と今後の取組み

生徒指導の三機能を生かし，特別支援教育を視点にした授業づくり〈生徒指導と学習指導の一体化〉に取組み，一定の成果が出てきたが，次の３点を課題として捉えている。

①　授業における共通実践項目の徹底

本校の取組みは，生徒アンケートの結果から，その成果が表れ始めている。しかし，「説明や指示が分かりやすい」という項目［検証の視点（１）図の２］は肯定的な回答が７割弱である。まだ３割以上の生徒が先生の説明はわかりにくいと答えている。したがって一斉授業における説明や指示の仕方を再度検証し，工夫することが必要である。

今後，指導主事を招聘した校内研修や，共通実践事項を基本に日常の授業をお互いに参観し，気付きを交流することなど教員同士の自主的な授業研究をすすめる中でお互いの授業力を高めていきたい。

②　個を大切にした指導法

今の取組みは一斉授業における授業づくりのシステムの一つである。全員の学習意欲や充実感を向上させていくために，今後このシステムに加えて，「個を大切にした指導法」（ＴＴ指導，習熟の程度に応じた指導，個別指導やグループ別指導など）の研究を進め，「すべての生徒がわかる・できる授業。教師も，やって楽しい授業づくり」をめざしたい。

③　全教育活動を通じての生徒指導

生徒が意欲を持って主体的に取組もうとする場は授業だけではない。また，授業におけるこのシステムを効果的に機能させるには，私たちが共通認識した生徒指導を，全教育活動の中で展開していくことが不可欠である。

今後，さらに生徒の主体的活動の場を広げ，生徒が自信と意欲を持ち，自己指導能力の向上が図られるように，生徒指導の三機能の涵養をすべての教育活動において組織的・計画的に仕組んでいきたい。